

市議会と新基本構想・基本計画素案策定市民会議との意見交換会 議員意見要点

今後の分科会検討に関する内容を抜粋

【全体】

- ・ 基本計画の達成度が検証される仕組みも検討していただけるといい。検証するのは議員や行政の仕事なので、検証のスキームを提案してもらえるといい。
- ・ 大震災を経て価値観は大きく変わった。かつては、勝ち組、負け組みなどあらゆるところで勝ち組に残らなければと言われていた時代もあったが、現在は、人は一人では生きていけないと考える人も増えている。自分探しのためにボランティア活動に参加する若者もいる。協働という言葉を使い始めて久しいが、行政と市民をどうつないでいくのか。もっと議論してもいいのではないかな。
- ・ 行政に頼るべきところは頼り、こうした協働を進めていくために市民が行政を動かすことも大切。行政は、市民意見をまとめ上げて政策につなげていくのが行政の役割といえる。
- ・ 市民参加は現実、なかなか難しい面もある。これからも皆さんの地元や職場の声なき声を拾ってほしい。
- ・ 大震災を経て、自然エネルギーへの転換について、環境分科会でも産業でも取り上げられている。このように、今後も共通項目の議論を高めていってほしい。また、新しい基本構想・基本計画で、市民の皆さんが何を重点項目とするのか議論してほしいと思う。
- ・ 総括的なまとめとより具体的なまとめが混在している。例えば、みんなで担う公共と協働分科会の2(2)施設利用料などの受益者負担のあり方では、施設使用料の値上げと市民活動の活性化の関係がある。また、所得の低下による貧困の拡大と福祉、教育分野における兼ね合いもある。受益者負担のあり方については慎重に議論を進めてほしい。
- ・ 各分科会においても分科会の中でもクロスオーバーする内容があってもいいと思う。見方やテーマが違うのだから萎縮せずにどんどん議論を進めて、最後にまとめてもらえばいいのではないかなと思う。
- ・ 孤族や無縁社会という現代の問題を意識して議論されていることがわかった。社会保障や福祉など国の法律制定など八王子だけでは解決できない大きな問題もある。しかし、市や市民としてできることを超えた提言も必要であれば大きなテーマについてもぜひ言及してほしい。

【全体】【みんなで担う公共と協働】

- ・ 大事なことは、市民の幸福をいかにつなげていくかということだと考える。これは要望だが、幸せを感じるかを把握するものが、施策の展開では満足度調査となると考える。新しい考え方としてGNH(国民総幸福量)がある。行政の側からGNHのような指標を表すことができるなら有効であるとする。

【みんなで担う公共と協働】【生活・共助】【教育・学習】

- ・ みんなで担う公共と協働分科会、生活・共助分科会、教育・学習分科会にも一環する課題として、地域活動への参加は実際、大きな課題である。今後も都市内分権のしくみについて検討してもらえればと思う。

【みんなで担う公共と協働】

- ・ 「幸福度ナンバーワン」について、8月に内閣府でも幸福度指標についての発表をしたが、大きな課題を感じている。つまり、市民の幸福度を上げるための行政の視点が全くない。平成22年度には、八王子で140人の人が自殺している。福祉の予算割合は都内でも大変低い。こうした現実をどう評価し、どの水準にあってどこまで引き上げたら市民の幸福が前進していくのか。こうした具体的な視点で考える必要があるのではないか。「幸福度ナンバーワン」と言われても認識が異なってしまうのではないだろうか。
- ・ 幸福度のテーマはいいが、個々人が実感する尺度が違うものであるため、中身についてこのように具体的に設定するのはふさわしくないのではないかと考える。

【生活・共助】

- ・ 生活・共助分科会の3(1)どこでも自分らしく活躍できる環境に関して、障害の有無に関わらないという点を強調してほしい。
- ・ 生活・共助分科会の4(4)ボランティアポイント制度に関して、多摩市では、学生に対するボランティア手帳の制度がある。八王子は学生が多い。こうした制度や学生との連携について検討してもらえたらいいと考える。
- ・ 自助、共助、公助は大切。その中で、各種団体も大切であると思うが、町会・自治会は基本と考える。古い町会も頑張って活動しているので、大事にさせていただいてパワーアップできるようにぜひ検討してほしい。
- ・ 平和は、地域の安全や人権尊重の上でも大切なテーマであるとする。戦争体験の継承など全国の都市が行っている具体的な取り組みを参考に検討してほしい。

【教育・学習】

- ・ 教育・学習分科会の1(4)親も育とう八王子に関して、4年ほど前に、^{おやがく}親学については話題となった。その後も現在も親学推進協会がある中で、こうした視点は大切だと考える。
- ・ 0歳から2歳児は、できれば家庭で育てられるようにした方がいいと自分は考えている。分科会でも検討してほしい。また、就学支援シートについては、市でも幼稚園や保育園から小学校に上がるだけでなく、小学校から中学校にあがる際の就学支援についても検討しているところである。分科会でもぜひ検討を進めてほしい。
- ・ 自然がこれだけ身近な八王子に住んでいながら、蛙やフナを採ったことがない子どもが大勢いるのが現状である。できれば、問題が多い学校に足を運んで、現場を見てほしい。
- ・ 市民会議が実施された市民アンケートでも、親、教師を尊敬しているかとの質問に対して、尊敬していないと半分近くの人が回答している。これからも、家庭の教育力をいろいろな角度から取り上げて検討していただけるとありがたい。

【まちづくり】

- ・ 交通政策において、自転車の利活用は重要な視点であると考え。自転車利用の促進条例といった言葉も載せてもらえたらいいのではないかと考える。
- ・ リニア中央新幹線計画が橋本駅である。これをいかにして八王子に取り込んでいくか。この点も検討していただければと思う。
- ・ 自転車施策についての方向性はよいと思うが、道路、インフラの問題がある。深刻な交通事故の問題がある。交通事故の危険をどう除去していくかの施策提言も同時にしていただければと考える。
- ・ まちづくり分科会の3(3)の防犯カメラの設置促進では、人権上の問題もある。多様な意見、視点で議論を深めてほしい。
- ・ 自転車について、結節点というか、ライド&ウォーク、ライド&サイクル、また駐輪場について検討してほしい。

【産業】

- ・ 八王子には、1万9千社の会社がある。8割~9割は中小零細企業である。こうした企業での働きやすい政策を考えてほしい。行政がどんなリーダーシップを取っていけば、八王子の企業が

元気になっていくのか市民の皆さんの声を代弁していただければと思う。

【産業】【環境】

- ・ 再生可能エネルギー産業は、八王子の大きなブランドになる可能性もある。議論の発展を期待する。

【環境】

- ・ 市では雨水浸透枡の設置に力を入れている。市民意識が高まるよう、市民委員の皆さんから市民への働きかけをしていただければと思う。
- ・ 環境分科会の3(3)でごみの3Rについて書かれているが、リサイクルはコストがかかる。できれば、リデュース、リユースを強調してほしい。
- ・ 日本の森林率は世界第2位である。1位はノルウェー、3位はスウェーデン。北欧諸国では、全エネルギーの20%を木質バイオマスでまかなっている。森林率が高い八王子はぜひ地産地消を積極的に考えてほしい。